



# Materials Science and Engineering 2018 (MSE)

## 会議報告

名古屋大学大学院工学研究科；教授  
山本剛久

2018年9月26日から28日までの期間、ドイツのダルムシュタット工科大学(Darmstadt University of Technology)において、Materials Science and Engineering 2018 (MSE 2018, <https://www.mse-congress.de/home/>)が開催された。この会議は、材料科学、材料工学に関する非常に広範囲な内容を議論する総花的な国際会議である。2008年を初回として同大学において隔年開催されてきた。会場となったダルムシュタット工科大学は、1877年創立されたドイツ有数の工科大学の一つである。そのキャンパスは、歴史を感じさせる建物から近代的な研究棟などエリアごとに特徴のある姿を感じることができる。会場となったエリアには、やや近代的なホールを有した大学センターを中心として、それに隣接する、いわゆるヨーロッパ地域でしばしば目にするような古めの建物とで構成されていた。この大学センター脇には、大学が運営するホテルも併設されている(図1参照)。緑が多いキャンパスは、ベンチに座って談笑する学生やスタッフが散見される長閑な雰囲気には溢れていた。以下に述べる全体講演(Plenary lecture)とポスターセッションは、この大学センターのホールとその廊下で、それ以外の講演は、その奥の建屋で行われた。

MSE2018は、全体講演や一般講演をはじめとする口頭発表とポスター発表から構成されている。全体講演は、開催期間の午前および午後、各1テーマずつ計6つの講演が行われた。それ以外の講演は大きく7つに分類され、バイオマテリアル、評価解析、機能材料・表面・デバイス、理論計算シミュレーション、プロセスと合成、構造材料の6つのセッションと、アルゼンチン・ドイツ共同セッションで構成されている。全体講演は、これらのセッションと関連する内容が選択されていた。この全体講演の中では、筆者の専門分野と関連していることもあるだろうが、機能を組み立てていく工具箱(講演では Tool box と表現)として格子欠陥を表現し、その構造や機能などをまとめた講演が印象的だった。ただ残念であったのは、会場となったホールの天井明かり窓から光が漏れており、スクリーンに映し出された映像がやや不鮮明であったことである。格子欠陥の構造やそのイラストなど非常に美しく描かれていただけに悔やまれる。また、共同セッションはこの会議の特徴の一つであり、開催ごとに決められる招待国の研究者と共同でアレンジしたセッションとして位置づけられている。今回はその国がアルゼンチンであったため、会議二日目に開催されたパーティーでは、アルゼンチンタンゴが披露された(図2参照)。パーティー会場は、拍手喝さいで大いに盛り上がっていた。全体講演以外の招待講演等に関する取り扱い、それぞれのセッション



図1 会場入り口付近。MSEのバルーンが見える。



図2 パーティーの様子。会場側からステージに向けて。

チェアに任されているようで、講演時間が長めに設定された基調講演(Key note lecture)が設定されていたり、講演時間は同じであるが注目講演(Highlight lecture)として設定されていたり、セッションごとに様々な工夫がなされていた。講演会は、10時に開始され、全体講演の後に各セッションが並行して18時まで続いていく。プログラムを確認したところ800件程度の講演数規模であった。一方、ポスター講演は250件程度であり、口頭での講演数と比べてその割合が多い印象を受けた。ポスター講演会場は、大学センターの地階を含めた二つのフロアが用意され、講演に使用するホール周囲のやや広めの廊下が使用された。国際会議でしばしば見られるような軽食が用意されたセッションであり、講演者も含めて飲み物などを片手に持ちながらの議論風景となった。この会場を一通り見て回ったところ、人気のあるセッションもしくはポスターと、そうではないものとの差が激しかったような印象を受けた。ところで驚いたことに、会場にはジャズバンドが準備され、ポスターセッション開始後30分ほどから演奏が行われたのである。筆者に関係するポスター会場は地階であったため、その演奏音が響いてくることはなかったが、地上フロアでは、かなりの音量の中での議論となっていたようである。ステージ正面にもポスターが掲示されていたことには少々疑問を感じた。ステージ正面のあの演奏音の中での議論は、果たして可能だったのだろうか。

以上、やや否定的な感想が多くなったような気もするが、会議の性質上、自身の研究分野とは関係のない研究にも触れられる新鮮さは感じる事ができた。次回は二年後に同じ会場で開催される予定である。ダルムシュタットの町や本場のビールが恋しくなったら、再び参加してみようかとは思っている。

(2018年10月2日受理)[doi:10.2320/materia.57.559]

(連絡先: 〒464-8603 名古屋市千種区不老町)